

訂正

Vol.58 No.2【論文】「基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生大腸菌に起因する尿路感染症に対するセフメタゾールの投与回数の違いによる有効性の比較検討」は、掲載後に訂正がありましたのでお知らせ致します。

p.169表【訂正版】

表1 ESBL-ECに起因する尿路感染症に対してセフメタゾールの2回投与または3回投与を受けた患者の特徴

	2回投与群 (n=23)	3回投与群 (n=23)	p値
患者背景			
年齢 (歳)	84 (76.0-87.0)	79 (71.5-83.5)	0.101 ^{a)}
女性	19 (82.6)	15 (65.2)	0.314 ^{b)}
施設入居歴	7 (30.4)	5 (21.7)	0.738 ^{b)}
市中感染	18 (78.3)	16 (69.6)	0.738 ^{b)}
院内感染	5 (21.7)	7 (30.4)	0.738 ^{b)}
3ヶ月以内の抗菌薬使用歴	8 (34.8)	11 (47.8)	0.550 ^{b)}
尿カテーテル使用	9 (39.1)	9 (39.1)	1.000 ^{b)}
免疫不全	0 (0)	1 (4.3)	1.000 ^{b)}
糖尿病	5 (21.7)	3 (13)	0.699 ^{b)}
悪性腫瘍	3 (13)	3 (13)	1.000 ^{b)}
eGFR (mL/min/1.73m ²)	60 (56.5-85.5)	68 (59.5-86)	0.675 ^{a)}
ICU入室	0	0	N/A ^{c)}
qSOFAスコア	1 (0-2)	1 (0-1)	0.612 ^{a)}
菌血症	6 (26.1)	8 (34.8)	0.749 ^{b)}
ESBL-ECと投与方法			
菌量 ^{d)} (CFU)	4 (4-4)	4 (3-4) ^{e)}	0.161 ^{a)}
1回投与量 (g)	1 (1-1)	1 (1-1)	1.000 ^{a)}
投与時間 (時間)	1 (0.75-1)	1 (0.5-1)	0.757 ^{a)}
抗菌薬投与期間 (日)	10 (8-12.5)	9 (7-12.5)	0.315 ^{a)}

値は中央値 (四分位範囲) または症例数 (%) で表記

a) : Mann-Whitney U検定

b) : Fisherの直接確率検定

c) : p値は両群とも症例数0のため計算できず

d) : 10の累乗を常用対数に変換後に解析

e) : 症例数はn=21として解析

N/A : not available, CFU : colony forming unit